

平成20年度 県土整備部環境配慮事例報告書

保全対象種

事業主管課	河川整備課
実施機関	南部総合県民局 県土整備部<美波>

【事業の概要】

事業の種類	港湾・漁港・海岸整備	海岸整備
事業箇所名	徳島県海部郡海陽町	
事業の規模・状況	0.95 km	小規模事業a 施工段階

【事業の目的及び概要】

当該箇所は、東南海・南海地震による津波の来襲が懸念される地域であり、背後地に家屋、及び公共施設が存在しているため、既存堤防の破堤防止工事を行うものである。

【実施した環境要素の一覧及びRDBの有無、モニタリングの要否】

大気環境	水環境	地形・地質等	生物多様性	景観	自然とのふれあい	文化財	廃棄物・温室効果ガス等	RDB種の有無	モニタリングの要否
			○					○	○

【特に配慮した環境要素と実施事項】

既往調査から、当該海岸には7種の希少植物が生育しており、工事施工箇所には下記の3種が生育し、当該工事による減少・消失等の危険性が考えられた。
 ・ハマアズキ(RDB指定無し): 堤体石積に約40個体、砂浜にも3個体確認。
 ・キダチハマグルマ(RDB指定無し): 工事の床掘線内に生育。
 ・ネコノシタ(徳島県RDB絶滅危惧 類): 生育箇所は離れているが、工事用道路等に掛かる恐れあり。

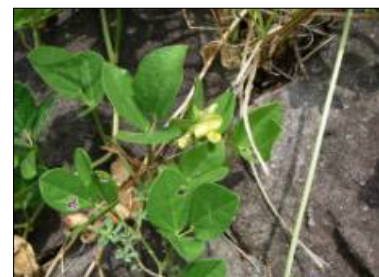
ハマアズキ及びキダチハマグルマは徳島では非常に珍しい植物であり、希少種として取り扱う。以上、3種の植物について、種子の保存や既存個体の掘り取りを行った。
 また、H20年秋・H21春(工事竣工後の予定)での播種(種まき)と移植、並びに、他の既存個体をロープにより工事車両から隔離し、不用意な被害を与えないようにする等の配慮も行っている。
 特に、ハマアズキは既設石積護岸に多く生育しており、石材による保温効果が好条件として作用したと考えられたため、工事竣工後には既存石積の代替物を作る予定である。

【目標に対する達成状況】

現在施工中であり、今後の状況把握に努める。

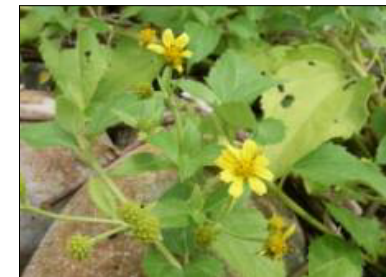
【実施事項に対する評価】

実施者	専門家のアドバイスを元に、希少種に配慮した工事を進めているところである。工事完了後に移植を行い、事後調査等による状況確認を行う。
主管課	工事を実施することは、動植物に何らかの影響が出るが、できる限り影響しないよう考えて工事を実施していくことが重要である。今後も専門家の意見を聞きながら環境に配慮した工事に努めたい。
専門家	アドバイス 種子は可能な限り多数確保し、播種(種まき)はリスク分散のため、海岸の複数地点に様々な条件で、今秋と来春(十分に気温が上昇する5月以降)の2回で行うこと。特に、ハマアズキは既設石積護岸が生育箇所として有利な条件を与えていると考えられ、(張コンによる)工事竣工後も石積に似た構造を作り、その箇所への播種を検討してほしい。



ハマアズキ(マメ科)

四国南部・九州南部・沖縄の海岸線に生える多年草。四国ではごく珍しく、県内では初記録である。



キダチハマグルマ(キク科)

四国南部・九州南部・沖縄の海岸線に生える多年草。国内のものはオオハマグルマという変種にされる場合もある。四国ではごく珍しく、県内では初記録である。

改変(工事)前の状況

生育状況



配慮対策の状況

【ロープ等による既存個体の隔離】



【張コンクリートの前に石積みを復元し、そこにハマアズキを移植(既存生育条件に近い環境作り)】

